

## 第1回 第6次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 令和元年12月18日(水) 19時～21時10分

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 市長

各審議会委員(欠席4名)

アドバイザー 金沢大学 佐無田教授

市側出席者

[事務局]

市参事兼産業建設部長 今井 史也

総務部長 川口 哲治

企画財政課長 山本 裕一

企画財政課課長補佐 松田 義人

企画財政課主事 長浦 達夫

会議傍聴者なし

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

(略)

### 3. 委員の紹介

### 4. 羽咋市総合計画審議会条例の説明

### 5. 会長及び副会長の選任

塩谷伸一氏を会長に選任

浅野由美子氏を副会長に選任

### 6. 審議事項

(1) 会議の公開及び会議録等の取り扱いなどについて

(2) 資料説明

① 総合計画策定体制とスケジュールについて

事務局より説明の後、審議

**【委員】**

- ・事務局から資料の PDF データ化したものを事前資料として提供する旨の申し出ありありがたいと思っている。ゆとりあるタイミングで資料提供いただければ、事前に事務局へ質問することも可能であり、そうすれば会議の進行もスムーズになると思うので、そのような対応をお願いしたい。

**【事務局】**

- ・ありがたいお申し出であり、そのようにさせていただきたいと思います。また、このような会議では、なるべく分かりやすく詳しく説明するように心掛けてまいります。

**【委員】**

- ・来年度の会議は頻繁に行われるのか。

**【事務局】**

- ・現在、庁内の専門部会に3月末までに基本計画（案）を作成するように指示してあります。その案をたたき台として、皆様に各項目をご審議いただきます。その進捗の度合いによって開催回数は変わってきますので、スムーズにいけば、5回程度で終わるかもしれませんが、8回、9回になることもあり得ると考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

② 羽咋市の人口について

③ 羽咋市の財政状況について

①、②を事務局より説明の後、審議

**【委員】**

- ・人口が減ると地方税が減るのか。また市債12億円ほどあるが、貯蓄はいくらあるのか。

**【事務局】**

- ・地方税については、景気対策により人口は減ってきてても地方税自体はそれほど減ってきてはおりません。人口が減れば税金を納めていただく人が減ることになりますし、景気も不透明であるという点で減少が予想されるというふうに考えております。市債の12億円は、平成30年度に借りた借金であり、邑知公民館建設事業費として借りたものなどとなっています。基金現在高は約35億円弱あり、借金現在高は254億円ほどあります。

**【アドバイザー】**

- ・最近金沢大学と羽咋市はいろいろと連携し、羽咋市の現状がどのようになっているかをデータ分析し、それに対する対策を行い、実際にどのくら

- い政策に効果が出るのかをデータ化し検証している。
- ・市の総合計画を策定するにあたって、この総合計画とは何なのかということを確認しておきたい。地域の計画としては、自治体にできることは限りがあり、地域全部を良くせよということは無理な話である。
  - ・この先10年で何をやっていかなければならないかという、社会の仕組みをかなり大きく変えていかなければならないと思う。従来のやり方を踏襲していっただけでは、うまくは適応していかない。
  - ・皆さんが住んでいる地区ごと、専門分野（団体）ごとの取り組みもある。これらの活動が積み上げられて地域は成り立っている。
  - ・今以上に、もっと地区や事業者、団体が新しい取り組みにチャレンジし、地域を良くしていくことを自立的に取り組んでいかなければならない。地域を作っていくのは市民であるということを第一にして、それぞれの活動を進めていくときに、自治体行政はどういう枠組みで何を支援しなければいけないかということが、この総合計画の意味づけである。
  - ・地区ごとに分析してみると、その地区ごとに課題が違っていたり、まちづくりの活動などがあつたりする。課題解決の取り組みをやりやすくするための仕組みを皆さんで協働し、工夫しながら作っていかねばならない。そのための体制、仕組みづくりをこの先10年でどれだけ構築できるかという視点で議論していけばいい。
  - ・人口について取り上げられていたが、その数字だけを見ると右肩下がりになっているので、地域が落ち込んでいくと見えがちである。人口の統計というのは、比較的正確に出てくると言われているので、人口減少に歯止めをかけるというのは、そう簡単に趨勢を大きく変えることは難しいのではないかと思うが、人口減少を抑制する取り組みはやっていかなければならない。
  - ・ある程度人口は減るが、減ったときに、貧しい暮らしになっていくかという、それは別の話である。
  - ・今の経済や行政の仕組みのままでは、立ち行かなくなるかもしれないが、人口が減っても成り立つ仕組みに変えていかなければならないということが大きな課題である。
  - ・1人あたりの豊かさに直すと、そんなに暮らしが悪くなるわけではないかもしれないし、1人あたりのストック（回ってくる資源）というのは大きくなっていくかもしれない。
  - ・どうやって人口が減っていく中で、うまく回る社会や経済の仕組みを作っていくかという風に、これからは発想を変えて取り組んでいかなければならない。

- ・人口の数値で気になったのは、50歳以上の未婚の男性が4人に1人くらいいるとか、将来になると2045年の時点で、比率で言うと90歳以上の女性の数が一番多いなどが気になった。
- ・年齢の若い人に任せるとは、言ってもらえない。自分が90歳になったときに、いったいどういう暮らしに、どういう社会となり、自分が幸せにいられるのかというふうに考えて、より良い状況を作っていくために、何が必要になっていくのかを、いろいろな事業者や教育者や団体が、いろいろな場面で、いろいろな取り組みをしていかなければならない。
- ・それをまとめて支えていく自治体行政とは、一体何なのかというようなところを、個別具体的なイメージを持ちながら、議論していければよいのではないか。

#### ④ 総合計画進行管理書について

##### 【委員】

- ・21年度が黒字化したということであるが、その定義がわからない。
- ・18年度や19年度の赤字や貯蓄がいくらあったかも分かるか。

##### 【事務局】

- ・簡単に言うと、貯金ができたか、取り崩したかということになります。普通交付税が30億くらいあるのですが、三位一体の改革が進められた際の平成19年度頃には25億くらいまで落ち込んだことがあり、貯金を取り崩しながら行政運営をしていました。
- ・平成26年度に過疎地域に指定されたのですが、日本の約49%が過疎地域に指定されています。道路や建物建設の時に借金をするのですが、過疎債という借金を借りられるようになりました。交付税に借りた額の7割相当額が返ってくるという有利な借金です。先ほど250億くらいの借金があると説明しましたが、後で返ってくる金額も含まれています。
- ・一般会計については、単年度単年度の会計になりますので、その年度に貯金ができたか、取り崩したかということが、赤字か黒字かということになります。
- ・18年度や19年度の赤字や貯蓄がいくらあったかはお示しできます。

#### ⑤ 住民意識調査結果について

事務局より説明の後、審議

### 【アドバイザー】

- ・羽咋市は、同じような全国の自治体の中でも、行政の施策としては、結構よくいろいろと工夫しながらやっているという印象がある。
- ・その割に、結果の数字がなかなか厳しい状況である。何がどこで足りないのかということについては、現場で実感している皆さんのご意見を出していただいて、それを反映していくようなことをしていかなければならないと思う。

＜今後、どのようなことに取り組んでいけばいいか＞

### 【委員】

- ・この審議会がどういうものを目指してやっていくかが課題である。
- ・人口減少をできるだけ食い止めたいとか、収支をなるべく健全に保ちたいという考えは採らない方がよい。人口減少は当然だと思う。かほくや中能登、羽咋で人口を取り合っても意味はない。その中で、どうやって社会の仕組みを考えていくことが重要。
- ・収入という観点は絶対に必要であり、羽咋市の特徴を見ると土地や住居に特化した産業を、要するに農業とか第1次産業を育てることが大切。
- ・これから人口が減る中で、農業ができるということは大きな力になる。農業さえあれば、生きていける可能性がある。これらの産業をもっともって育て、若い人に魅力に感じてもらえるような取り組みが重要だと考える。人口が減少し広い農地をより大規模に利用する農業従事者を育てるのが良い。少なくとも、食べていけるという安心感があることが良いと思う。
- ・産業や企業という点で見れば、大きな産業が参入することは難しいので、テレワークやICTを活用した産業や起業を、小さくともいいので促せばよい。
- ・羽咋市がこの人口減少社会で、どうやって生きていくかということを考えることが大事であり、人口を増やそうという意見にはあまり賛成ではない。どちらかという、それでも生きていける社会をつくるべきだと思う。
- ・社会的インフラについて言うと、例えば、医師の数はどんどん減っている。医療はサービス業の最たる分野だと思うが、後継者もこの地区では開業したくないといった意見もあり、人口の多い大都会へ流れていっている。そうなるとうとう、公的な力で支えていただくしかなくなる。
- ・認知症でいうと、90歳以上の方の約60%は認知症を患っている。95歳以上になると90%近くとなっている。高齢になれば、認知症になるのは当たり前なので、いかに支えるかということなど決めていかないとはいけ

ない。限られたマンパワーでは力及ばないので、生活の仕方も含めて考えていく必要がある。

- ・そういうことも含めて、人口は少ないけども、みんなが幸せに限られた資源で、どうやれば豊かになれるかと考えることが重要。縮小してもいい。生きていける方法を考えてほしいと思っている。

#### 【委員】

- ・10年前の同じ会議の資料を見たときに、人口についてはほとんどぴったりとした数値になっている。
- ・人口が減ることは仕方ないことであり、その対策も必要であるが、対応していくことにも力を入れてほしい。
- ・借金の考え方は民間の感覚とは違うかもしれないが、自治体としては、ある程度の借金を抱えていようが、夢を与えられる借金であれば、借金を抱えることを承知で取り組んでいただきたい。
- ・今回の審議会には、若い方や女性の方もたくさんいらっしゃるので、どんどん夢を語ってほしいと思う。

#### 【委員】

- ・インバウンドに向けた観光事業についてと、東京五輪の聖火リレーへの取り組みを提案したい。
- ・近年、内灘駅からサンセットを見に来る外国人観光客が増えているとのこと。そこまで来ている外国人観光客を千里浜や羽咋の方に引き込めると考える。羽咋市に外国人観光客向けの施策があれば観光事業が盛り上がってきて、そこに産業が生まれれば、雇用も生まれ、県外から来る方々も羽咋に魅力を感じてもらえるのではないかと思う。産業を豊かにしていくことが大事だと思う。自分は県外出身者なのだが、羽咋市の人は普通に感じてしまっている気多大社などの文化財や古墳など、県外の人間にとって、とても魅力的なスポットがあるので、インバウンドの方に文化や芸能を含めて埋もれてしまっている資源を再発掘して、その良さを伝えられるバイリンガルの方などを雇用できる環境を作ってはどうか。東京オリンピックに向けてうまく活用できればいいのではないかと考えている。
- ・聖火リレーは、6/1、2に能登では史上初のスポットになっているということであり、そこはチャンスだと思うので早めに取り掛かれれば良いと思う。

#### 【委員】

- ・羽咋市市民憲章は、自分たちはこれに向かって、こういう市民になっていくんだという思いを込めて、市の行政も応援してくださいよということで、この市民憲章は作られている。
- ・これが作られた頃は、全国でも珍しい取り組みであった。

- ・文化協会では、会合の冒頭で唱和をしているが、他に唱和している団体はあるのだろうか。
- ・第5次総合計画の進行管理書で、よくなっている項目が5つとなっているものが、「安全・安心で環境にやさしいまちづくり」しかない。
- ・絵に描いた餅を我々は復唱していたのかなと反省している。
- ・1人1人がきちんと、自分はこんな市民になりたい、こんなまちに暮らしたいという希望だけは、ずっと伝えていると思っている。そのベースを忘れてしまっているのではないかということが自分の感想である。
- ・第5次計画の反省を踏まえてやっていかないといけない。

#### 【委員】

- ・若い人達を参加させてほしい。夢を見て新しいことにチャレンジしたい。
- ・住みよい環境にしていけば、都会よりも魚釣りもできるし、おいしい農産物も収穫できるし、環境はいい。大阪や東京のクリエイターたちは、田舎へ回帰の想いを持った人が多くいる。5Gなどの環境が整えば、地方でも仕事ができるので、ここで暮らしたくなる。新しい取り組みが見い出せないのであれば、まずは羽咋市の環境を良くして、暮らしたくなるような新しい発想をもって、未来に夢見ながら取り組んでいけばいい。

#### 【事務局】

- ・人口減少社会になっているのは数字からも見ても間違いありません。人口を増やそうということばかりではなく、人口減少を当然のことと受け止めて、それに対する対応し、ここで暮らしながら、みんながここで暮らし続けたいという社会を作っていかなければならないと考えています。
- ・市民憲章についても、第5次総合計画の基本理念に掲げており、第6次総合計画でも、基本理念に掲げるべきであろうと考えています。羽咋市子ども会育成会理事会でも、冒頭で市民憲章を唱和している。市民憲章というものは、羽咋市に暮らしていくうえで大切にしなければならない魂だと思っています。市の会議等でも唱和をする機会を作るようしなければならぬと思います。
- ・限られた資源をとというご意見もありましたが、例えば気多大社では気の葉祭や鶺鴒祭りで鶺鴒が捕らえられないということを参拝する方々に見ていただき、環境について考えてもらおうという取り組みを実践されています。ある資源をどうやって磨くかという考え方だと思います。他のまちにはなく、羽咋市にしかない資源をどう活かしていくかということだと思います。ないものねだりではなく、あるもの磨きという考え方で取り組んでいかなければならないと思っています。
- ・やはり、住み続けたい、暮らしやすいと住民の皆さんが思えるようなまち

- づくりを進めなければならないと考えています。
- ・SDGsという考え方がありますが、高度経済成長期に経済をどんどん良くしていこうとしたあまりに、自然環境が悪化したり、社会として格差が生まれたりと若干歪んだ世界になってしまっています。この経済、環境、社会の3つをバランス良く共存させていこうという考え方がSDGsの考え方だと思います。このような考え方に基づいて計画を策定していかなければならないとも考えています。
  - ・インバウンド対策について、総合戦略の中で各種施策を展開していこうと掲げており、交流人口という考え方に加えて、関係人口、つまり単に来て見ただけではなく、この羽咋という町に訪れて、体験して、人と触れ合い、深く関わって、この町を気に入ってもらい、リピーターになってもらう。その延長線上で、生活拠点を移そうかと考えてもらえればという考えが関係人口という考え方であり、その考え方に基づいて、総合戦略の1つとしてインバウンド対策も検討しています。2020年の東京オリンピックのみならず、2025年の大阪万博や2027年開業予定のリニア新幹線などの高速移動手段が発達することも見据えながら、市としても施策を進めていかなければならないと考えています。
  - ・5G環境の整備という点では、Society5.0時代の到来により、人の手が足りなくなれば、ロボティックやメカニカルな機能を活用しながら、人が減っても豊かな暮らしができる社会を築いていかなければならないとも思います。
  - ・これらを併せ持った地域の仕組みづくりを考えていかなければいけないものと理解しています。
  - ・今後、各種施策に皆さんの意見を落とし込んでいくことになるわけですが、大枠として、皆様からいただきました今回のご意見は貴重なものであると思っております。

#### 【アドバイザーから総括】

- ・なかなか頑張っている羽咋市であっても、指標からするとまだまだ課題はあると思う。特に、弱い部分でいうと、産業面が弱いだらうと考えるが、地域の柱となる産業を作り出せるかとなると大変なこと。企業誘致をすれば良いという時代ではないので、どのように柱となる産業を作り出すかとなってしまうとなかなか答えは出すことはできない。
- ・産業から地域振興を考える時代ではなくなっているかもしれない。とは言っても、何かしらの収入減がなければいけない。若い人の生き方や働き方というのは、かなり多様になってきており、この地域をもっと良くしたいと思



をもった人が、この地域でやりがいを持って実践していることが収入になっていくような仕組みづくりが大切である。

- ・大きくは2つの課題を見据えておけばいいと思っている。

- ・1つ目には、リスクとレジリエンス（対応力）である。

どういうリスクがこれから地域に起こるのかを見据えながら、どう対応していくかということ構築しておくことが重要である。リスクの1つは人口減少や高齢化であり、弱者にとって、どのようなサポートがないといけないのかが見えてこないといけないと思う。また、災害への対応が大きな課題である。気候変動が激しくなっていく一方なので、そういうリスクを見据えて、暮らしの環境を守り整えていくことが柱の1つになりうる。

- ・2つ目には、魅力づくりである。

夢がないといけないとおっしゃっていたが、地域の魅力をどんどん高めるようないろいろなアイデアが出てきて、それらに取り組みやすいという状況をつくるのが重要であると考えている。やりたいと思う人がいて、実際にやることができる環境を整える。やりたいことを実現するということはとても大変なことである。学習し、協働し、サポートし、実現にまで繋げていく過程を、地域としてシステム化していかなければいけないであろうと思う。

- ・アイデアをもってやりたいと思っている人がいれば、どんどんチャレンジしてもらおうという環境を整え、やりがいがあると思えるような地域を作ること。この地域は、活動に対し支えてくれて、いろいろなリスクはあるけれども、ここであれば安心して暮らせると思えるような体制を整えていかなければならない。

## 7. 次回会議について

### 【事務局】

- ・第2回 3月中（日程調整のうえ決定）

## 8. その他

### 【事務局】

- ・団体やグループで、羽咋市のことを聞きたいという要望があれば、出前講座という形で伺って説明させていただきます。

## 9. 閉会